

## (熊本県立天草高等) 学校 令和 4 年度 (2022 年度) 学校評価表

1 学校教育目標						
「正大・剛健・寛厚」のもと、豊かな人間性を持つ「地球（知究）市民」の育成を目指す						
2 本年度の重点目標						
<p>(1) 人権尊重の精神の涵養と基本的生活習慣の確立に努め、豊かな人間性の育成を図る。</p> <p>(2) 基礎学力を充実させ、勤労と勉学との両立を図り、生徒一人ひとりの自己実現を目指す。</p> <p>(3) SDGs の視点を持ち、主体的・継続的に学びに取り組む態度を養い、生涯学習の基盤を培う。</p> <p>(4) 体力の向上、心身の健康の保持増進及び安全教育の充実を図る。</p> <p>(5) 地域で唯一の定時制課程の高校として、地域に開かれた学校づくりに努める。</p>						
3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	・魅力ある学校づくり	・学校行事等の充実は図られたか。	・学校行事に参加する生徒の割合は、8割以上を目指す。	・行事内容の工夫・精選。 ・生徒が参加しやすい環境の整備。 ・生徒への指導。	B	・コロナ禍が続く中、本校定時制独自の行事（ボウリング大会、サンキャッチャー製作等）は感染対策を施しながら実施することができた。 ・3学期の始業式ではすべての生徒が行事に参加することができた。
		・安心・安全な学習環境は確立できたか。	・一人一人の生徒が安心して授業に参加できるように、日々の学習環境を整える。 ・危機管理意識を高め事故の未然防止に努める。	・担任に限らずすべての職員が生徒から相談・要望を聞き取れる関係を築いておく。 ・毎日の生徒情報交換会で一人一人の生徒の身体的・心理的状況を共有し把握する。 ・非常時の危機管理についての研修を行い、事故の未然防止の重要性を確認する。		・生徒登校時や休み時間に声掛けをしたり、授業開始前に授業への出席を促す声掛けを全職員で行ったり、率先して挨拶を行ったりすることで、落ち着いた状態で授業を始めることができた。 ・各クラス・授業の状況（生徒の理解度・要望等）に応じてティーミング（以下TT）を配置した。特に1年次では国語・数学・英語の授業で、2年次では情報の授業で個別の対応が必要な生徒がいたために配置し、その結果、生徒は安心して取り組むことができた。職員数が少ない中、柔軟に対応できた。 ・配慮を必要とする生徒への対応について毎日の情報交換会や月1回の生徒連絡会を通して情報を共有したり、職員研修を実施したりし

						<p>たことにより、突発的な事案への対応もスムーズにできた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非常時における危機管理に関する職員研修を実施したほか、避難訓練も実施した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・不祥事防止及び地域・保護者・生徒の信頼と期待に応える教育活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃の危機管理意識の向上及び実践はできたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不祥事を「0」にする。</li> <li>・定期考査及び入試事務処理時等の個人情報管理を徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不祥事全般に関するセルフチェックシートによる定期的な確認を行う。</li> <li>・日々の行動及び物品管理の徹底をする。</li> <li>・個人情報管理の共通理解事項について、確認シートを作成し全職員が共有する。</li> <li>・職員研修を通して不祥事防止の強化を図る。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不祥事防止テキストを教職員1人1人に作成し、セルフチェックシートと併せて、常に身近な所において確認できるようにし、意識啓発を図ることができた。</li> <li>・不祥事全般への関心を高めるため、新聞報道等があるたびに、記事等を紹介するなどして職員の規範意識高揚の徹底を図った。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動の公開は十分か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報誌の発行。</li> <li>・ホームページの充実。</li> <li>・公開授業の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「定時制新聞」を発行する。</li> <li>・日々の話題をホームページに掲載する。</li> <li>・振興会総会の際に授業を公開する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「定時制新聞」は、年5回の発行によって掲載内容の精選と作成担当者の負担軽減を図ることができた。</li> <li>・ホームページについては、本年度はさまざま行事を実施できたことから、常に最新の行事の様子を発信できた。</li> <li>・振興会総会の際に授業公開の機会を設けたことによって、役員の皆様は授業の様子を見ていただくことができた。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校改革</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校務改革は図られたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勤務環境を改善し協働体制を整え、業務の効率化に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由に意見を出し合い、学校の課題を洗い出し、課題を認識すると共に全職員で共有する。</li> <li>・課題を分析して改善策を検討し、改善内容を確認・実践する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・労安懇話会を2ヶ月に1回実施し、職員から意見を聞くためのアンケートを行い、その内容について、校長・教頭・衛生推進者2名により協議する場を設け、改善を図った。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改革は図られたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度からの新学習指導要領施行を念頭に、理解力や特性に応じて、より質の高い教育を提供する。それぞ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を実施する中で生徒の困り感について、相談・研修を実施し、意見を出し合い、効果的な指導のあり方</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業を2年ぶりに実施することができた。合評会において職員間で協議し、共有することができた。</li> <li>・各授業担当者が本校生徒の実態に応じた授業の工夫を行い実施でき</li> </ul>	

			<p>れの職員が授業方法及び評価法について改善を努める。</p>	<p>や教材研究に取り組み、授業と評価の改善を図る。</p>		<p>た。効果的な指導のあり方などを出し合い、ユニバーサルデザインに基づく配慮について、情報交換をはかることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助的又は発展的な学習が必要な生徒には、適宜早く登校させて個別指導を行うなどきめ細かな対応ができた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務改善及び働き方改革</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勤務超過時間の短縮は図られたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化による負担軽減</li> <li>・メンタルヘルスの保持</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事の精選、各分掌の簡素化、業務の効率化、ICTの有効活用、授業準備・生徒指導の時間確保。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事等に応じて、勤務時間帯の柔軟な変更や年休・育児休暇等の積極的な取得、定時退勤の徹底等を進めることができた。</li> </ul>
学力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に学習する習慣・態度の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的な授業参加は図られたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率90%以上を達成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒と良好な人間関係を構築するために、「認め、ほめ、励まし、伸ばす」姿勢を大事にして積極的な声かけを行う。</li> <li>・欠席や欠課が多い生徒には面談や家庭訪問を行い、保護者との連携など早めの対応を心がける。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率は全体で94.9%であり、目標を達成することができた。</li> <li>・欠席が多い生徒が抱えている特性や課題については、教職員間で情報を共有するとともに、スクールカウンセラーや市役所の子育て支援課、ハローワーク等の関係機関と連携を図り、さまざまな支援の在り方について検討し、生徒・保護者の支援にあたることができた。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習習慣の確立は図られたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題や提出物の提出率60%以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時の作品</li> <li>・プリント課題や長期休業中の基礎学力向上のための課題の提出状況を確認する。また教科担当者と連携し、未提出者を減らす。</li> </ul>		B
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導力向上や授業充実に向けた取組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価の実施は図られたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に満足している生徒の割合80%以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回の授業アンケートを実施し、検証する。</li> <li>・授業改善を図り能動的な授業を実践する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価アンケートの結果では、授業の満足度は高く、わかる授業が実践できていると言える。</li> <li>・アンケートの結果を参考にしつつ、今後さらに生徒の意欲関心を引き出すために、全教科で体験的な授業を多く導入したり、タブレット端末を使ったりして、生徒の理解を助けていく。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業の充実は図られたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の実情に応じた研究授</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務部で企画、日程調整を</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業を2年ぶりに実施できた。合評会で</li> </ul>		

			業のあり方を検討し実施する。	行い、研究授業、合評会を充実させる。	B	出された意見を今後に活かし、毎年2科目ずつの実施を行う予定。
キャリア教育(進路指導)	・個々の能力・適性に 応じた就職・進学指導	・個々の能力を伸長する 取組と適性に 応じた就職・進学 指導ができたか。	・ICTを積極的に 活用した授業で、生徒の持 っている力を 引き出す。 ・高卒求人Webサ ービスや日本 版0-netを活用 してより個に 応じた進路指 導を推進する 。	・1人1台端末の 利用を希望す る生徒に対し て、端末上で 入力ができる 教材を提供す る。 ・高卒求人Webサ ービスや日本 版0-netを利用 する。また、 利用の仕方な どを周知する 。	B	・職員アイデアと行動 力で、生徒ひとり一 人に 応じたきめ細かな進 路指導が、ICTを活 用しながら実践でき た。 ・生徒に応じた進路指 導を行うため、面談のた びに記録や引き継ぎを 文書等に 残して利用し たり、進路指導のしお りを作成するなどして いきたい。
	・社会人として必要 な資質を 身につけ 働く意義 を知る取 組	・就労する生徒また はインターンシ ップへの参加者は増 加したか。	・インターンシ ップ事業を全 体に周知し、 参加を促す。	・参加希望者には 体験先を探 すところから 、主体的に関 わるよう事業 を進める。	B	・希望者にインターンシ ップ事業を実施するこ とができた。 ・今後は7月以外にも、 他校の実践を参考にし ながら、必要に応じて 、柔軟なスケジュール でインターンシップ等 を実現したい。
	・望ましい 勤労観・ 職業観の 育成	・キャリア意識の醸 成は図れたか。	・企業見学を実 施する。 ・進路のしお りを作成する。	・企業で行われ ていること全 体を俯瞰して 見ることで 見学先では複数 の職種や業務 に触れる。 ・キャリアパス を見通せるよ う、少なくとも 進路に関する 日程などの 情報や進路別 の情報、進路 決定後の支援 機関、これまで の進路情報 などについて 、作成する。	B	・企業見学を実施する ことができた。次年度 以降も生徒の希望等 を取り入れながら、 勤労観・職業観を 育成できるよ うな活動にしたい。 ・3学期、進路指導の しおりを 仕上げていく。
生徒指導	・基本的生 活習慣の 確立を図 り、学校 生活への 適応を促 進	・規範意識の醸成は 図れたか。	・学校に楽しく 登校できる環 境作りをして 、遅刻・欠席 を前年度より 減少させる。 ・生徒が互いに 周囲の生徒と コミュニケーション を構築し、楽 しい学校生 活が送れる ようにする 。 ・SNS等を正 しく使用でき	・登校指導及び 各ホームルー ムで毎日声か けを行う。 ・毎月1回無欠 席ウィークを 設け、意識の 高揚を図る。 ・各行事にお いて生徒間の 会話の機会を 増やす取組み をする。 ・SNSの利用 について全校 集会等の機会	B	・職員側からの積極 的な声掛けを 継続して実施 してきたこと で、職員と 生徒の コミュニケーション が醸成され、 円滑な学校 生活が送 れている。 ・今年も感 染症の流行 により行事 等が制限さ れることも あったが、 感染症対策 を徹底して 実施した。 来年度も感 染症予防策 を徹底し実 施する。 ・SNS等の 利用に関し ては機会を 捉え指導した

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒理解のための取り組みは十分か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の実態把握、共通理解をするため、毎月生徒連絡会を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎月、各担任が生徒一人ひとりの職場・学習・生活の状況について報告することで、全職員で情報を共有し、対応策を話し合い、実践する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒のわずかな変化を見逃さないように定期的な面談に加わえ、必要に応じた随時の面談を実施した。また毎日の始礼、毎月1回の生徒連絡会において全職員の共通理解を図り、生徒に対する理解を深めている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年間を通じた問題行動の未然防止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問題行動の未然防止は図れたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別指導件数を「0」にする。</li> <li>・ 年間を通しての登校指導、校内巡視を実施する。</li> <li>・ 連絡会で気になった生徒については、担任・生徒指導部で早期に面談等を実施し、未然防止に努める。</li> <li>・ 生徒のわずかな変化も見逃さず機会を捉え指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒理解に努め情報を共有し、職員の共通理解のうえ事前指導に重点を置き、早め早めに対応していく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別指導件数「0」を目指して未然防止に努めてきた結果、特別指導は無かった。</li> <li>・ 機会を捉え、機会を逃さないように全職員で規範意識の向上に取り組んできた。また、多くの生徒はアルバイト等でしっかりと対応が出来ており、規範意識は身につけてきていると思われる。</li> <li>・ 全生徒が職員の中で誰か一人でもいいから心を開いて話せるような関係作りを行った。生徒には、一番話しやすい職員に悩み等を話すように伝えている。</li> </ul>		
						<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交通事故防止は図れたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事故件数を「0」にする。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒会活動及び学校行事の活性化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒会の主体的な活動の支援はできたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種行事への生徒会の積極的な関与を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種の行事における企画立案への助言を行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定時制通信制文化大会への参加に関して、生徒会役員の生徒に助言をしながら発表内容や展示内容を検討した。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人権教育の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員の人権感覚の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員研修の充実は図れたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員の人権意識の向上を目指し、研修の機会を確保する。(年間4回の研修実施)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人権教育推進委員会で検討した内容について全職員に共通理解を図る。</li> <li>・ 夏季休業中にオンライン形式での研修を実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当者が作成した人権LHRの指導案について、生徒が自分事として捉えることができるように委員会で意見を出し合い、指導案に反映させた。</li> <li>・ 夏季休業中に、オンライン形式での職員研修を実施することができた。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己実現のための支援は十分か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒に明確な将来像(目標・夢)を確立させ、進路指導部と協力しながら、その実現に向け努</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考査期間を利用して、年間5回の個人面談を実施し、将来像を具体化するとともに、「言わな</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 面談週間では各生徒の状況把握などを行うことができた。卒業年次の生徒に関連しては、進学・就職試験に向けての人権LHRを実施し、「言わない、書か</li> </ul>	

			力させる。	い、書かない」の精神を定着させる。		ない」運動について定着を図った。
いじめの防止等	・「命を大切にすることを育む指導」の充実	・自尊感情の醸成は図れたか。	・生徒一人ひとりの自己肯定感、自己有用感、自己効力感等の自尊感情を育成し、「命を大切にすることを育むことの重要性を理解させる。	・自尊感情を高めるために、日常の言葉かけを積極的に行う。 ・視聴覚教材や外部団体・講師等を活用し、ロングホームルームの内容の充実を図る。	A	・職員側からの積極的な声掛けを行い、一人ひとりを大切にしていることが生徒にも伝わり、自尊感情の醸成がされたと思う場面が見られた。 ・新型コロナウイルス感染症予防も併せて、自他の命の大切さを理解し、行動することが出来た。
		・いじめを見抜く力の育成は図れたか。	・校内でのいじめ「0」を目指すとともに、早期発見・早期対応を心掛ける。	・生徒の現状把握に努め、いじめ防止・早期発見に努める。 ・各学期にアンケートを実施する。	A	・各学期にアンケートを実施し、いじめの訴えは「0」であった。生徒理解と共通理解を深め、日々の指導に生かしたことがいじめ防止に役立った。
特別支援教育	・インクルーシブ教育の観点を踏まえた、特別な支援を必要とする生徒への適切な対応	・生徒一人ひとりの実態把握に必要な支援の実施と、それを受けた評価、改善の実施ができたか。	・生徒連絡会で月に一度情報を共有し、支援方法を検討・実践する。 ・学びのUD化の視点を取り入れた授業を行う。 ・個別の支援計画・個別の指導計画等の作成と活用を努める。	・教頭・特別支援教育コーディネーターを中心に、個別の支援及び指導方法について全職員で共通理解を図りSC・SSWと連携し、支援体制を整える。 ・支援についての連絡会、研修、外部機関と連携した支援会議を学期に1回行う。 ・新入生に関しては、中学校又は前籍校からの引継ぎがある生徒を中心に、個別の支援計画等を担任が作成する。	B	・SCやSSWとの連携を適宜行っており、生徒の状況把握や支援の充実につなげている。 ・夏期休業中にSCを講師とした特別支援研修を実施した。3学期では就労支援施設の職員を講師として研修・講演会を計画・実行した。 ・新入生に関しては、引き継ぎのあった生徒を中心に個別の支援計画を作成し、保護者との情報共有を行った。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	・総合型コミュニティ・スクール	・地域連携の組織づくり	・防災型から、総合型に変更することで、さらに地域連携を図り、協議を充実させる。	・学校運営協議会を年2回開催し、本校の教育活動について検討する。 ・本校の教育活動の現状を把握するため、在校生、保護者、本校職員へ学校評価ア	B	・4月に地震発生による津波を想定した避難訓練を行った。9月には津波発生を想定した高台への避難訓練と消防署員立ち会いの通報訓練、消火訓練を行った。訓練で消火器を使う生徒が増えた。 ・年2回の学校評価アンケートを実施。全体としては、概ね好意的で

				ンケートを実施する。		あるが評価の低い分野への指導改善が課題である。
	・高校間の連携	・地域への情報発信。	・年間を通じて生徒が地域ボランティアや地域行事に参加する。	・各方面からの参加の案内や地域広報などについて、生徒に周知し、積極的な参加を呼び掛ける。	C	・ボランティア等についてはアルバイトの予定と重なる部分が多くなかなか周知をすることができなかった。
健康安全教育の推進	・健康に関する意識の高揚と環境保全意識の向上	・健康教育等の充実を図れたか。	・定期及び適時の保健指導を実施する。個々の生徒の状況や季節に応じて、指導を心がける。	・学期初めに生活習慣をチェックし、睡眠・食事について、個別に保健指導を行う。 ・月1回「保健だより」を発行する。 ・保健室前掲示板を活用する。	A	・「生活習慣チェック」により、生徒は自分の生活をふり返ることで自分の健康について意識し、改善するきっかけとなった。また、チェック表の結果についてコメントで返したり、保健室での個別指導に利用したりすることができた。 ・始業式や終業式では、毎回感染症予防についての話をし、長期休業中の保健だよりと運動させて家庭でも見直せるようにした。 ・毎月「保健だより」を発行し、季節や実態に合わせた話題を取り上げて生徒の健康に対する意識を向上させた。また、保健室前掲示板は毎月作成し、生徒の関心を高めることができた。
		・学校給食の充実を図れたか。	・栄養面を考えた上で、可能な限り生徒が喜ぶ内容にする。	・予算の範囲内で生徒の要望を聴取し、パン・ジャムの種類を変更する。		B
		・環境教育の充実を図れたか。	・年2回のエコスクール週間を中心に生徒の環境意識向上を目指す。	・エコチェックアンケートの実施と環境ISO委員会による集計・検証・改善を行う。 ・入学式で新入生の花道を飾るためのチューリップの球根植えを行う。	B	・6月、12月に「エコスクール週間」を実施し、生徒たちが自分の生活を振り返る機会となった。また、1回目の結果を集計・分析を行い、全体へ周知したことで、2回目の意識付けに繋がった。 ・チューリップの球根植えは入学式に花を添えることを目的とし、1人1プランターずつ積極的に取り組むことが

	・体力向上と安全教育の推進	・安全教育等の充実を図れたか。	・交通安全教育、薬物乱用防止教室を実施する。	・生徒指導部、保健体育部及び関係機関と連携を図りながら、企画する。	B	できた。 ・今年度の薬物乱用防止教室は、本校の学校薬剤師にお願いした。感想では、しっかり講話を聞いての感想が書けている生徒が多かった。また、身近な話題に触れていただくことで、生徒は「今後の生活に生かしていく」という思いを持つことができた。
		・体力・気力の向上を図れたか。	・定通体育大会、マラソン大会等、体育行事に積極的に参加させる。	・保健体育部が中心となり生徒一人ひとりに応じた計画的な指導を行う。	A	・新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底し、体育的行事を実施できた。日頃の検温・健康観察を実施し、感染症対策を徹底し、体育の授業において体力の向上を図った。

#### 4 学校関係者評価

学校運営協議会を年2回開催し、定時制の取組について関係者へ報告を行うと共に意見をいただいた。また、生徒・保護者・振興会役員・職員に対して実施した学校評価アンケートの結果等も報告した(学校評価アンケートは令和4年(2022年)7月及び12月に実施している)。委員からは、以前と比較して、きちんと座席に座って授業を受けていることや、アルバイト先で、非常に真面目に働いており、考えながら行動できるので、大変助かっているとの評価をいただいた。また、ホームページ等を活用した情報発信について、これからもさらに力を入れていくべきであるとのアドバイスをいただいた。今後も今まで以上に、教職員が一丸となって、生徒の情報共有・生徒理解及び組織的支援に努めていきたい。さらにこまめな情報発信を継続し、保護者や地域との信頼関係をさらに構築していきたい。

#### 5 総合評価

本校定時制に在籍する生徒は、中学校や前在籍校で不登校傾向にあり、登校しても教室には入れず別室で過ごしていた者も少なくない。そのため基礎的基本的な学習習慣が身に付いておらず、高校での学習理解が厳しい生徒もいる。さらには、他者とのコミュニケーションを苦手としたり、成功体験が乏しくて自尊感情が低かったりする生徒も多い。このような現状を踏まえて、教育目標及び重点目標に沿って日々の教育活動にあたった。

(1)「人権尊重の精神の涵養と基本的な生活習慣の確立に努め、豊かな人間性の育成を図る。」

生徒一人一人の特性に応じたきめ細かな支援を行うために、全教職員で生徒に関する情報共有を徹底するとともに、必要に応じて外部専門機関との連携を図った。また、生徒が互いの特性や違いを理解し、相互に尊重し合うことができるように、様々な観点から人権教育に取り組んだ。さらに、勤労観や職業観を育成するためにキャリア教育の内容の見直しを行った。その結果、日常生活において、協調性や相手を思いやる言動、進路意識を持った行動が見られるようになってきた。

(2)「基礎学力を充実させ、勤労と勉学との両立を図り、生徒一人ひとりの自己実現を目指す。」

ハローワーク等外部機関と連携してアルバイトの奨励を行い、職業教育の充実を図った結果、生徒の就労率は56.5%(23名中13名)であった。夏休みには生徒2名がインターンシップを経験している。地域社会における学びを通して他者から認められる体験をしたことで自己有用感と社会的責任を実感し、意欲的な勤労意欲が培われるとともに、学習意欲の向上にも繋がった。

(3)「SDGsの視点を持ち、主体的・継続的に学びに取り組む態度を養い、生涯学習の基盤を培う。」

SDGsの視点から、毎年教育の日講演会で、地元の伝統工芸品についての学びに取り組んでいる。今年度はサンキャッチャー製作を行い、地元の振興について学習した。また、環境教育においても、軽食で飲む牛乳パックについては、必ず折りたたんで捨てるように指導し、ゴミの分別等もきちんと継続的に行い、身近な環境について日常的に考えさせている。

(4) 「体力の向上、心身の健康の保持増進及び安全教育の充実を図る。」

生活習慣チェック週間を毎月設定し、睡眠や食生活等の基本的な生活習慣について生徒の自覚を促し、生活リズムを確立するよう随時指導を行った。また、体育的行事への積極的参加を促し、定時制・通信制の体育大会では、男子団体の部で総合優勝、男子ダブルスで3位入賞という成績を収めることができた。2月の校内マラソン大会は、授業では感染拡大防止に努めながら、練習に励み、全力で頑張る生徒の姿が見られた。今後も感染防止の工夫を凝らしながら、体力向上を図っていきたい。

(5) 「地域で唯一の定時制課程の高校として、地域に開かれた学校づくりに努める。」

生徒の日々の学校生活を記事にした「定時制新聞」を、毎月、保護者・出身中学校・地域の関係機関等に配布した。ホームページは更新の頻度を増やし、最新の情報を掲載することで「生徒の今」を伝えることができた。昨年度から始めた職員ブログも継続し、書籍の紹介をはじめ、職員から見た定時制の様子をそれぞれの言葉で伝えることができた。

また、生徒のキャリア形成支援のための進路に関する研修で個に応じた指導や支援のあり方について共通理解を図るとともに、キャリア教育を充実させ、生徒の勤労意欲向上に努めている。進学希望者に対しては個別学習（課外授業）を実施し、今年度は英語検定に2人受検している。

## 6 次年度への課題・改善方策

天草地域における唯一の定時制課程の高校として、個別の支援を必要とする生徒の学びの場、不登校傾向にあった生徒の学び直し場として、年々定時制の必要性が高まっている。特に、生徒一人ひとりに応じた支援体制の構築については、教職員が常に寄り添った丁寧な対応を心掛けたことで、一定の成果を上げることができている。しかし、今後も状況次第では更にきめ細かな対応が必要となる生徒も在籍している。引き続き教職員全体で共通理解を図りながら、緊密なコミュニケーションを念頭において、保護者や関係機関と連携した支援を実施していきたい。

次年度への課題としては、

(1) 基本的な生活習慣の確立ができていない生徒が在籍しており、社会人として自立していける人材の育成を目指す。

(2) 基礎学力定着のために、教員の生徒に対するコミュニケーション能力のさらなるスキルアップを図る。

(3) さまざまな課題を抱えた支援の必要な生徒に対して、教職員全体で共通理解をはかりながら、学校外の専門機関と連携をとりながら支援していく必要がある。

そこで、次年度においては、本年度の取組の成果を踏まえつつ、特に次の点について改善を行っていきたい。

(1) 基本的な生活習慣の確立のために、特に「時間厳守」や「適切な言葉遣い」「ルールやマナー」についての指導を工夫し、社会人として自立していける人材を育成する。

(2) 基礎学力定着のための「わかる授業」の工夫・改善、ICTのさらなる活用、指導力向上のための研修の場を設けて、教員のスキルアップを図る。

(3) 校内はもとより、学校外の専門機関と連携を図り、一貫した支援などのあり方や、ニーズに合った具体的な支援のための組織的な対応の深化をめざす。